
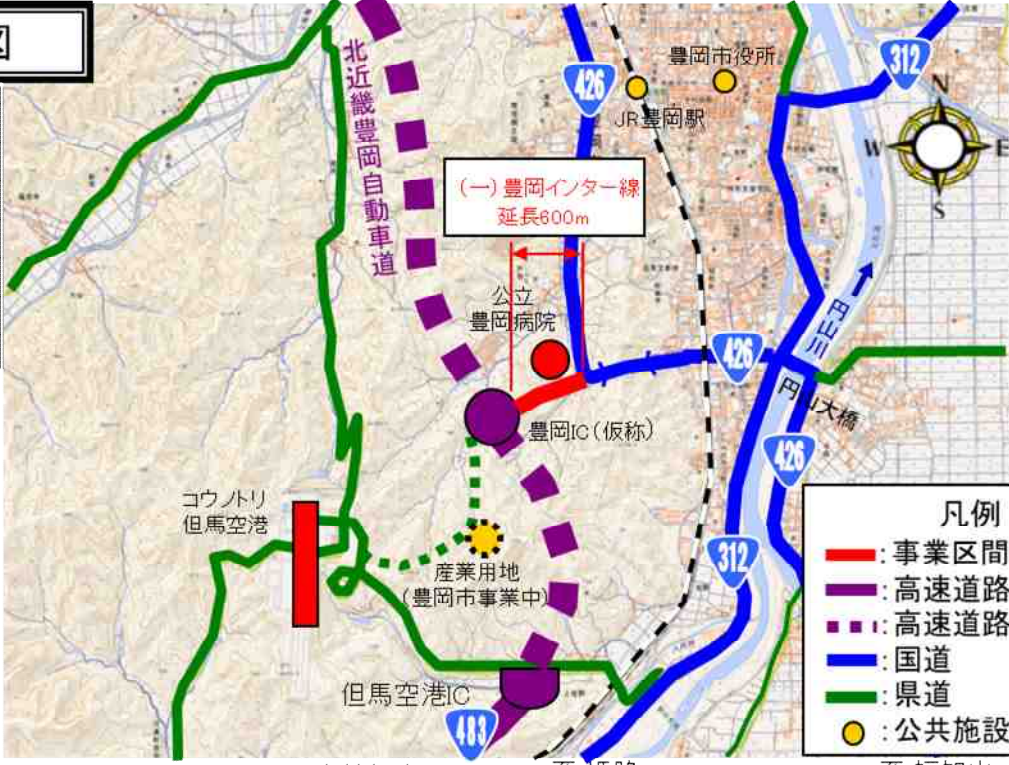


令和4年度 投資事業評価調書（継続：再評価〔第2回〕）

部課室名	土木部 道路街路課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	道路街路課長 田中 秀典 (県道班長 奥村 孝幸)	内線	4362 (4376)
事業種目	道路	新規評価年度	平成26(2014)年度	現計画	前回評価時点
事業名	道路改築事業 一般県道 豊岡インター線	事業採択年度	平成26(2014)年度	総事業費	40.0億円
		着工年度	平成26(2014)年度	内地補償費	4.6億円
		再評価年度	平成29(2017)年度	完成予定年度	令和6 (2024)年度
事業区間	とよおかしとべら 豊岡市戸牧	進捗率 (用補進捗率)	92% (100%)	49% (100%)	
		残事業費	3.1億円	8億円	
事業の目的			事業内容 () 前回評価時点		
<p>高速道路へのアクセス機能の確保 本路線は、豊岡市街地から北近畿豊岡自動車道(仮称)豊岡ICへのアクセス道路として機能する。 救急時の時間短縮・防災機能強化 緊急輸送道路である北近畿豊岡自動車道と一体となり、3次救急医療機関の豊岡病院や広域防災拠点であるコトリ但馬空港へのアクセス向上を図る。</p>			<p>【延長】600m 【構造規格】第3種第2級 【計画幅員】4車線 片側自歩道3.5m 車道13.0m 〔全幅19.75m～16.25m〕 【計画交通量】〔R12予測〕 14,100台/日(15,300台/日) 【費用負担】国50%、県50%</p>		
事業を取り巻く 社会経済情勢 等の変化	<p>北近畿豊岡自動車道の整備に合わせ、ICへのアクセス道路の整備が必要。豊岡インター線は、平成27年6月に都市計画決定。 【北近畿豊岡自動車道の事業の動き】 豊岡道路 期((仮称)豊岡IC～(仮称)豊岡北JCT・IC) 平成27年6月に都市計画決定、令和2年4月に事業着手 豊岡道路(但馬空港IC～(仮称)豊岡IC):整備中(令和6年秋開通予定) 日高豊岡南道路(日高神鍋高原IC～但馬空港IC):令和2年11月に供用 【前回評価時点からの事業計画・総事業費・工期の変更概要】 大規模な地すべり及び法面崩壊等が発生し、地質調査及び観測、対策工法の検討、被災施設の撤去、地すべり対策工の追加等の理由により、事業費を25.0億円増額する。地すべり対策工法の検討及び地すべり対策工事に時間を要したため、完了予定年度を令和6年度に変更する。</p>				
進捗状況	進捗率は事業費ベースで92%、用地取得率は100%。 令和6年秋の豊岡道路との同時供用に向け、引き続き工事を推進する。				
評価視点	評価結果の説明				
審査会意見及び対応方針 (H29年度再評価)	【審査会意見】 豊岡インター線の切土については、近傍の工事において地質条件が悪く、斜面防災対策に苦慮した経験を踏まえ、工事前に対応方策を十分に検討されたい。	【対応方針】 学識経験者意見聴取のうえ詳細設計を実施した。また、R2年6月に発生した地すべり及びR3年12月に発生した表層崩壊についても、学識経験者意見聴取のうえ調査・設計を行い、対策工法の方針を定めた。			
(1)必要性	北近畿豊岡自動車道の(仮称)豊岡ICやコトリ但馬空港と豊岡市中心部を結ぶアクセスルートとして、北近畿豊岡自動車道の整備に合わせ、交通需要に応じた4車線整備による円滑な交通を確保する必要がある。 災害時等の防災拠点(豊岡病院、コトリ但馬空港)への人員・物資輸送の交通確保を図るため、緊急輸送道路である北近畿豊岡自動車道と豊岡市中心部とのアクセス道路を確保する必要がある。				
(2)有効性・効率性 (執行環境状況)	費用便益比B/C=16.8(全体)(前回評価時点B/C=16.4)、B/C=218.7(残事業)(仮称)豊岡IC及び(主)但馬空港線の供用に合わせた本事業の整備により、救急医療体制の充実、観光振興、企業誘致、空港利用促進等において相乗効果が期待できる。				
(3)環境適合性	切土法面については、在来種等による植生の復元を図り、周辺環境の保全に配慮する。歩道舗装には、雨水が地中に浸透する透水性舗装を採用し、地下水涵養を図る。				
(4)優先性	豊岡市街地から、コトリ但馬空港への主要アクセスルートとして、早期に整備する必要がある。本路線とつながる(主)但馬空港線沿いには、豊岡市が産業用地を整備しており、早期に整備する必要がある。				
再評価の結果	継続	左の理由 事業の必要性は事業採択時と変わっておらず、北近畿豊岡自動車道の整備に合わせ、継続して事業を実施する必要がある。			

事業進捗状況概要図（継続：再評価〔第2回〕）

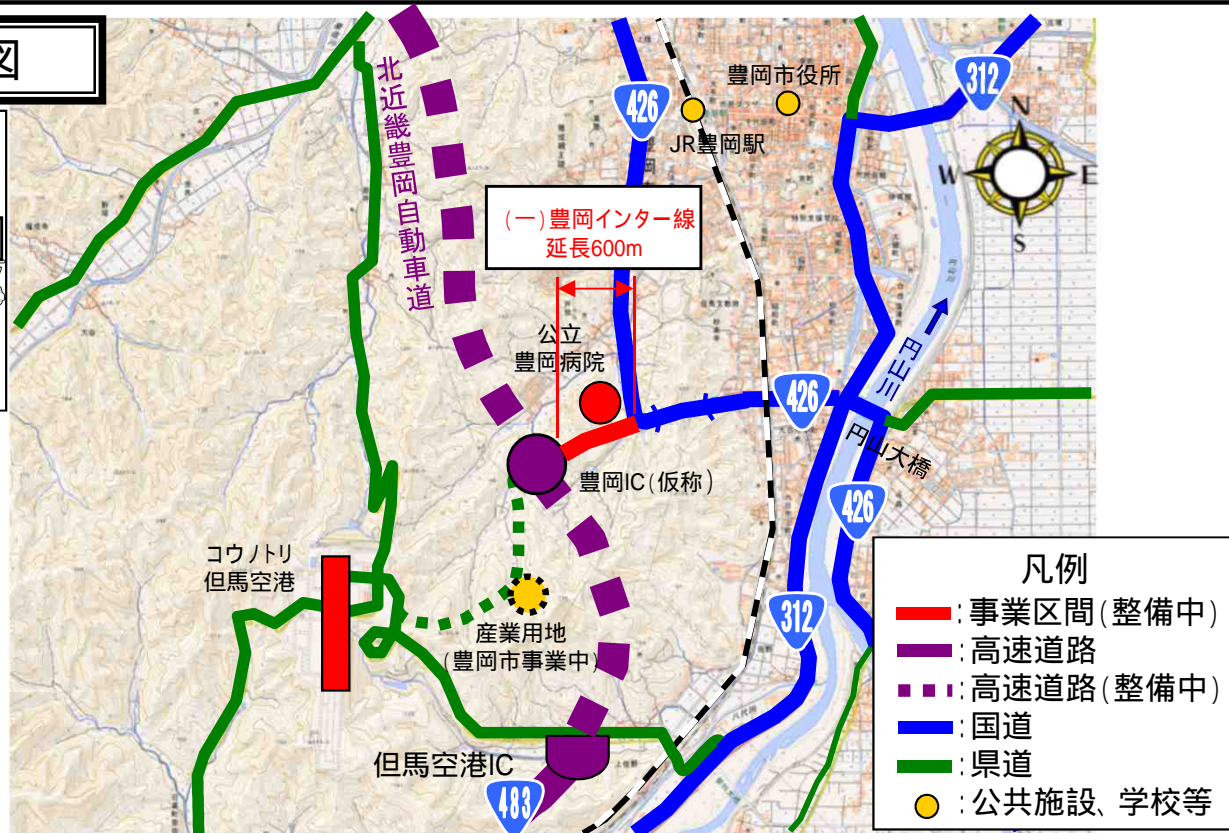
事業名	道路事業	路線・河川名	一般県道 豊岡インター線
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 25%;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">位置図</div>  </div> <div style="width: 50%; text-align: center;">  </div> <div style="width: 20%;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">凡例</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ : 事業区間(整備中) ■ : 高速道路 ■ : 高速道路(整備中) ■ : 国道 ■ : 県道 ● : 公共施設、学校等 </div> </div> </div> <div style="margin-top: 10px; display: flex; justify-content: space-between; font-size: small;"> 出典: 国土地理院 至 日高神鍋高原IC 至 姫路 至 福知山 </div>			
	事業進捗状況・予定		整備効果
全体 H26(2014) ~ R6(2024)	【事業費 = 40.0 億円】 ・延長 600m ・用地約 21,300m ²		
前回再評価ま で (実績)	【事業費 = 7 億円】 事業進捗率 49% 用地取得面積約 21,300m ² (進捗率 100%)		
過去 5 年間 H30(2018) ~ R4(2022)	【事業費 = 29.9 億円】 事業進捗率 92% 用地取得面積約 21,300m ²		
今後 2 年間 (予定) R5(2023) ~ R6(2024)	【事業費 = 3.1 億円】 ・令和 6 年秋 全線供用予定	全線供用により、豊岡市街地から北近畿豊岡自動車道のアクセス道路として機能し、3次救急医療機関である豊岡病院や防災拠点であるコウトリ但馬空港へのアクセスが向上する。	

道路事業 一般県道 豊岡インター線

位置図



事業箇所



出典: 国土地理院

目的

高速道路へのアクセス機能の確保
救急時の時間短縮・防災機能強化

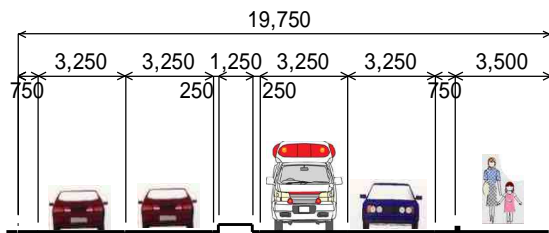
事業概要

事業区間: 豊岡市戸牧
 総事業費: 40.0億円
 内用地補償費: 4.6億円
 事業期間: H26(2014)年度 ~ R6(2024)年度
 事業概要: 新設県道
 延長: 600m
 費用便益比B/C: 16.8

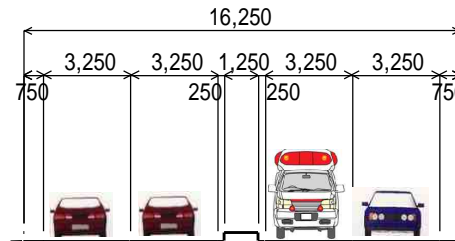
横断図

計画

片側歩道あり区間



歩道なし区間



事業の必要性・優先性

(仮称)豊岡ICと豊岡市街地及び但馬空港を最短で結ぶ道路としてアクセス性の向上に大きく寄与し、北近畿豊岡自動車道の豊岡道路(但馬空港IC～豊岡IC)に合わせて供用する必要がある

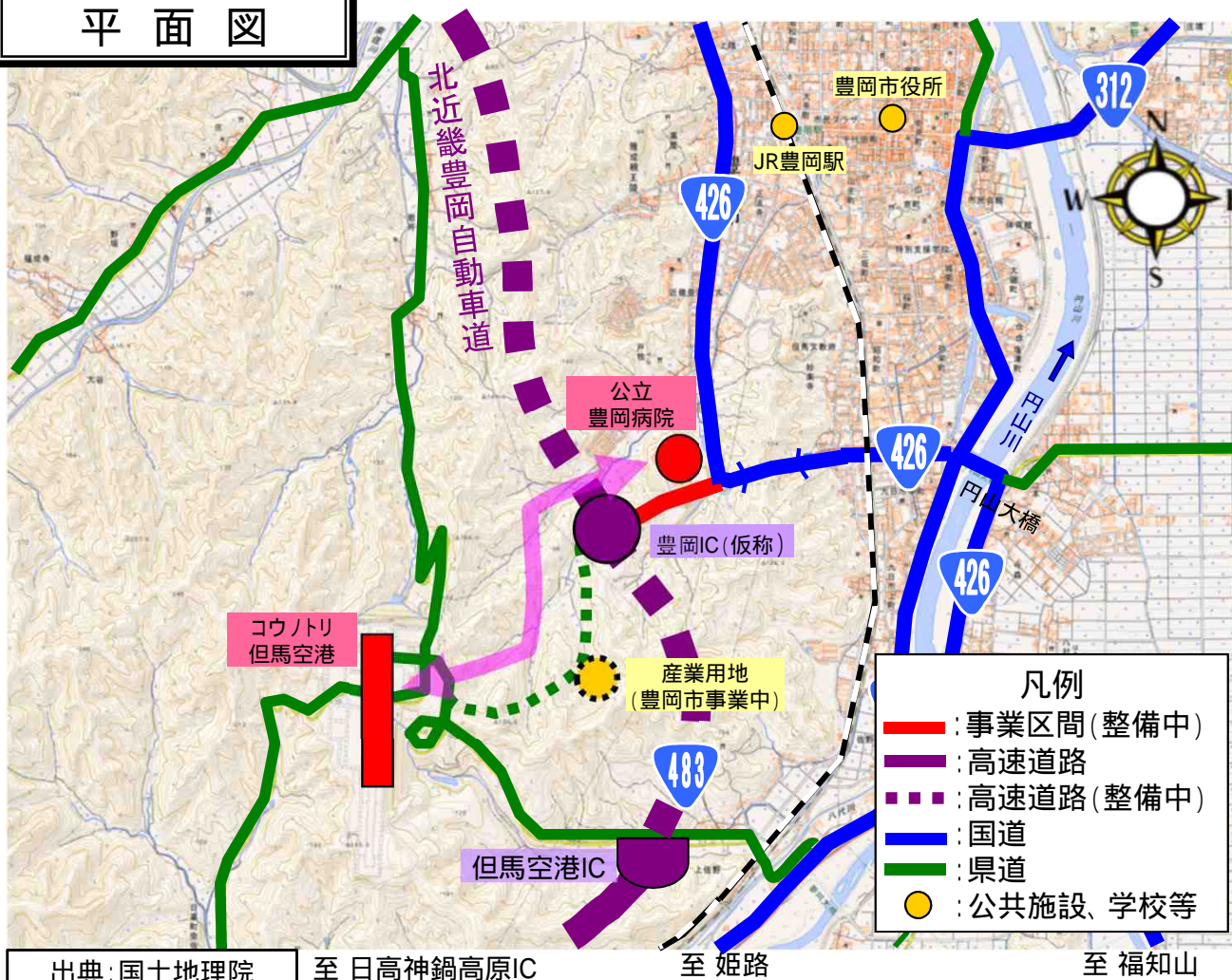
広域防災拠点であるコウノトリ但馬空港への人員・物資輸送の交通確保を図る

但馬地域唯一の3次救急医療機関である公立豊岡病院へのアクセス向上により、救急医療体制の強化を図る

北近畿豊岡自動車道の整備と併せて、観光振興、企業誘致、空港利用促進等の相乗効果が期待できる

本路線とつながる(主)但馬空港線では、豊岡市が産業用地整備を進めており、早期整備が必要

平面図



出典:国土地理院

公立豊岡病院(災害拠点病院)



コウノトリ但馬空港(但馬広域防災拠点)



但馬空港周辺産業用地(仮称)

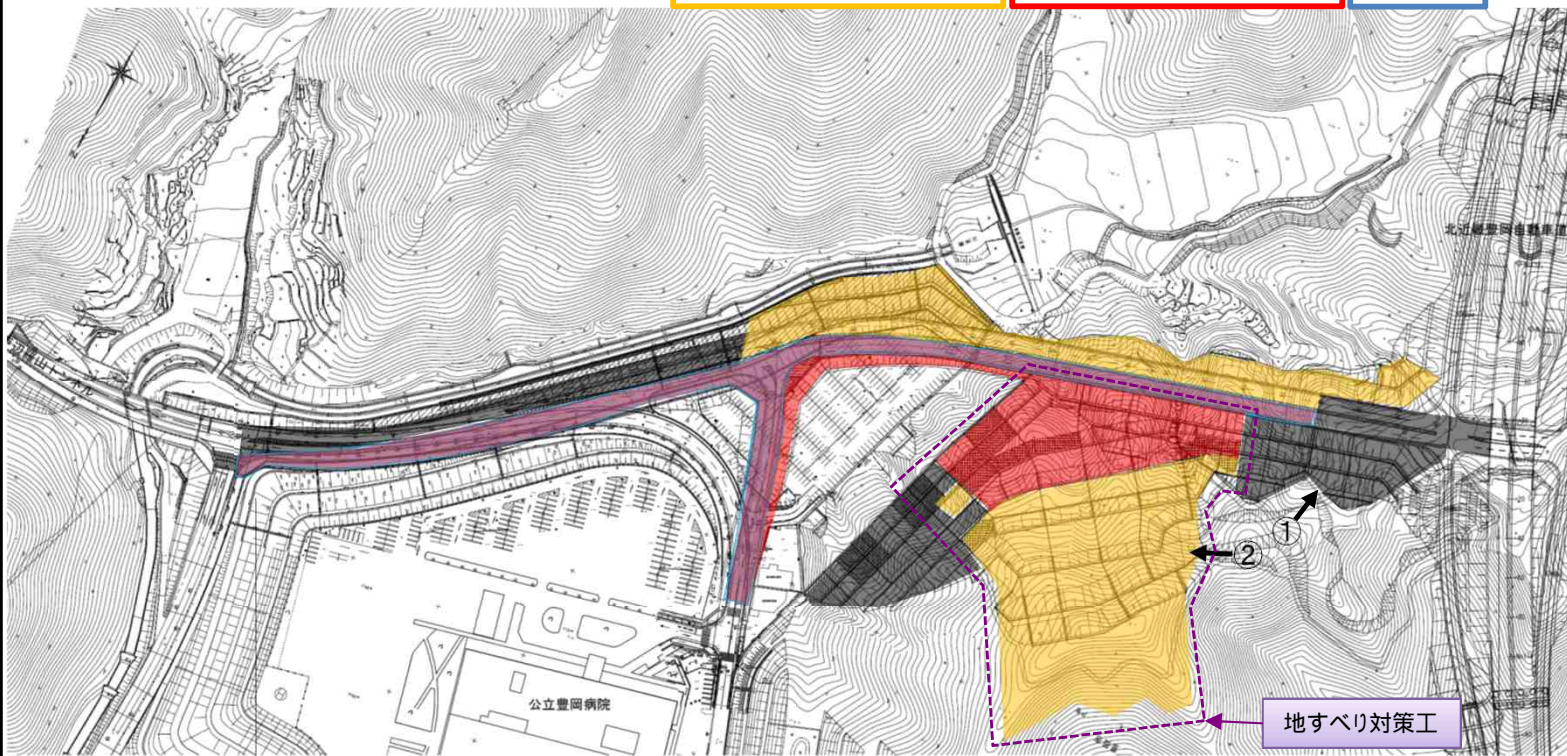


**[R6年度]
販売開始**

進捗状況

事業進捗平面図

: 施工済
 : R4施工
 : R5施工
 : R6施工
 : 地すべり対策工事、本線工事
 : 地すべり対策工事、本線工事
 : 舗装工事



現況写真

本線施工状況



地すべり対策実施状況



R3年12月 法面崩壊状況



工程表

年度		H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6
本線	設計・協議	■										
	用地補償	■		■								
	道路改良工事			■							■	
地すべり対策	設計・協議							■	■			
	地すべり対策工事							■				

: 前回計画
 : 実施・計画

審査会意見及び対応方針 (H29年度再評価)

審査会意見	対応方針
<p>切土法面の緑化については、「兵庫県の生物多様性に悪影響を及ぼす外来生物リスト」等を参考に植生を選定するよう留意されたい。</p>	<p>土木工事共通仕様書に記載の通り、「兵庫県の生物多様性に悪影響を及ぼす外来生物リスト」を参考に植生を選定している。</p>
<p>豊岡インター線の切土については、近傍の工事において地質条件が悪く、斜面防災対策に苦慮した経験を踏まえ、工事前に対応方策を十分に検討されたい。</p>	<p>学識経験者意見聴取のうえ詳細設計を実施した。また、R2年6月に発生した地すべり及びR3年12月に発生した表層崩壊についても、学識経験者意見聴取のうえ調査・設計を行い、対策工法の方針を定めた。</p>

事業の有効性・効率性

(1) 費用対効果

便益(B)の項目

評価の視点	効果項目(費用対効果の便益内容)
走行時間短縮便益 目的地までにかかる時間が短くなることによる便益	整備無しの走行時間費用 - 整備有りの走行時間費用 走行時間費用: (交通量 × 走行時間) × 時間価値原単位 × 365日
走行経費減少便益 交通の流れがスムーズになり燃費などが向上することによる便益	整備無しの走行経費 - 整備有りの走行経費 走行経費: (交通量 × 距離) × 走行経費原単位 × 365日
交通事故減少便益 交通事故が減少することによる便益	整備無しの事故損失額 - 整備有りの事故損失額 事故損失額: (交通量 × 距離 × 交差点以外の事故損失原単位 + 交通量 × 主要交差点数 × 交差点部事故損失原単位)

費用便益費(B/C)算出根拠

事業	事業名	B(便益)		代表的な効果	C(費用)			B / C		
		便益額 (百万円)			総費用 (百万円)	事業費 (百万円)	維持管理費 (百万円)			
道路	一般県道 豊岡ｲﾝﾀｰ線	全体事業費	走行時間短縮便益	58,950	計画交通量: 14,100台/日	4,016	3,977	39	16.8	
			走行経費減少便益	7,727						
			交通事故減少便益	899						
			計	67,576						
	残事業費	全体事業費	残事業費	走行時間短縮便益	58,950	計画交通量: 14,100台/日	309	270	39	218.7
				走行経費減少便益	7,727					
				交通事故減少便益	899					
				計	67,576					

(2) 費用対効果に含まれない効果

評価の視点		効果項目	該当する事業内容等
安全・安心の確保	災害時	緊急医療・緊急物資の円滑な輸送の確保 (緊急輸送道路の整備、防災拠点・災害拠点病院へのアクセス道路)	緊急輸送道路としての機能を強化 公立豊岡病院(第3次救急医療機関・災害拠点病院)へのアクセス性の向上
		救助・救援活動の支援 (災害時の通行不能や孤立集落の解消)	市内幹線道路の代替機能確保
		減災対策への取り組み (二選定道路、避難路・避難場所としての機能、延焼防止機能の確保)	-
	平時	救急医療体制の支援	公立豊岡病院(第3時救急医療機関)へのアクセス性の向上
		交通安全対策	通過交通の転換による現道利用者の安全確保
地域の活性化	地域間交流の促進	高規格幹線道路と豊岡中心市街地のアクセス性の向上による交流の促進	
	中心市街地の活性化	豊岡中心市街地の活性化	
	地域産業の活性化	市が整備する産業用地へのアクセス性向上	
	観光支援	(仮)豊岡ICへのアクセス性の向上による観光振興	
	地域プロジェクト等支援	市が整備する産業用地へのアクセス性向上	
円滑な交通体系の確保	公共交通機関利用の促進 交通結節機能の向上	通過交通の転換による路線バスの定時制の確保	
地域の環境改善	沿道環境の改善 景観形成	通過交通の転換による騒音、排気ガス等の沿道環境への負担軽減	

(3) 地域からの要望状況等

要望状況等	北近畿豊岡自動車道・山陰近畿自動車道早期実現促進大会の開催、豊岡市の産業用地整備により、豊岡道路、豊岡インター(仮称)の早期整備が求められている
-------	--